

平成31年3月15日

平成30年度 練馬区立石神井南中学校 学校評価報告書

練馬区立石神井南中学校
校長 田邊 克宣

1 自己評価結果

(1)〔概要〕

- ① 本年度より、保護者アンケートに加えて生徒アンケートを実施し、双方の比較による評価を行った。保護者アンケートは90%以上の回収率であった。
- ② 「あてはまる」「ややあてはまる」を肯定的回答とし、その割合が「90%以上」「70%以上」「70%未満」の3グループに分類し、保護者・生徒・平均による検証を行った。
- ③ 評価の高い項目は今後も指導を継続し、評価の低い項目を中心に来年度に向けて教育内容を見直し改善していく。

(2)〔結果〕

① 肯定的回答 90%以上

4. 学校は清掃が行き届き、校内美化や生徒の安全確保に努めている。(90%)
10. 学校は情報モラル、SNSの適切な使用、薬物乱用防止の意識を高める指導を行っている。(92%)
21. 学校は安心して通うことができる。(94%)

② 肯定的回答 70%以上

1. 学校の教育方針や重点目標はわかりやすい。(76%)
2. 学校は特色ある学校づくり（小中一貫教育や数学習熟度別少人数授業）に取り組んでいる。(73%)
3. 学校は学校だよりやホームページ、学年・学級だより等で学校の様子を知らせている。(89%)
6. 学校は評価・評定の規準や方法について説明している。(83%)
8. 学校は基本的な生活習慣が身に付くよう指導している。(85%)
9. 学校は社会生活における規範意識（やってはいけないことを思う力）を高める指導を行っている。(84%)
11. 学校は道徳の時間を大切にし、道徳の指導に力を入れている。(71%)
13. 学校は生徒の悩みや相談に応える環境を整えている。(73%)

- 15. 学校は運動会や文化発表会など、学校行事の充実を図っている。(89%)
- 16. 学校は生徒会活動や委員会活動など自主性を育てる指導を行っている。
(84%)
- 18. 学校は保護者会や三者面談を通じて家庭への連絡をきめ細かく行っている。(77%)
- 20. 自分は楽しく学校へ登校している。(83%)

③ 肯定的回答70%未満

- 5. 学校はわかる授業、学び合いのある授業等の授業改善に取り組んでいる。
(69%)
- 7. 学校は生徒の学力を適正に評価している。(69%)
- 12. 学校はいじめや不登校の未然防止に努めている。(61%)
- 14. 学校は進路の情報を提供し、適切な進路指導を行っている。(69%)
- 17. 学校は部活動の充実を図っている。(64%)
- 19. 学校は地域の施設や人材を活用した教育活動を行っている。(61%)

[分析]

21の項目に対して90%を超えるものが3項目、80%を超えるものが7項目、70%を超えるものは5項目、70%未満のものは6項目であった。

90%を超えるものについては、校内の美化活動、情報モラル、安心して通えるかどうかという生活指導に関する項目であった。続いて学校だよりやホームページ、学年・学級だよりなどの情報及び運動会や文化発表会等の学校行事に関しての回答が89%であり、学校からの情報発信と学校行事の充実については肯定的に受け取られていることが分かる。

一方70%未満であるものを見ると、授業改善・適正な評価といった学習に関する事項と、いじめ、不登校への対応が挙げられる。これらの項目については、学校評価アンケートを取り始めて以来の課題となっている。

なお、本校の学力に関しては、以下の通り [区・都・国] いずれの学力調査においても平均を上回っている。

[東京都 『 生徒の学力向上を図るための調査 』] (第2学年)

	A 教科の内容		B 読み解く力に関する内容		合 計	
	本 校	東京都	本 校	東京都	本 校	東京都
国 語	80.1	73.8	78.4	69.6	79.8	73.1
社 会	70.7	63.3	64.2	52.1	69.4	60.9
数 学	66.1	56.8	57.5	43.9	63.9	53.6
理 科	58.0	54.3	53.6	50.1	57.0	53.3
英 語	67.5	58.9	51.7	45.5	63.8	55.8

[練馬区 『 学力調査 』] (第3学年)

	基礎			活用			全体		
	本校	練馬区	全国	本校	練馬区	全国	本校	練馬区	全国
社会	65.1	53.8	57.9	53.3	51.6	50.6	63.1	53.4	56.7
英語	76.7	72.3	65.3	61.7	53.7	43.1	72.4	67.0	58.9
英語	76.7	72.3	65.3	61.7	53.7	43.1	72.4	67.0	58.9

[全国 『 学力・学習状況調査 』] (第3学年)

	A 主として知識 (国語・数学)			B 主として活用 (国語・数学)		
	本校	東京都	全国	本校	東京都	全国
国語	82	77	76.1	69	63	61.2
数学	74	67	66.1	54	49	46.9
理科	73	65	67.9	68	65	64.9

	本校	東京都	全国
<u>人の役に立つ人間</u> になりたいと思いますか	75.2	66.3	70.7
家での予習・復習・テスト勉強に <u>教科書</u> を使っていますか	48.7	36.0	35.1
地域や社会で起こっている問題や出来事に <u>関心</u> がありますか	28.3	21.8	20.0
地域や社会をよくするために <u>何をすべきか</u> 考えることがありますか	16.8	12.1	10.6
テレビやインターネットの <u>ニュース</u> を見ますか	66.4	54.8	52.4
地域社会などでボランティア活動に <u>参加</u> したことがありますか	△34.5	52.2	51.8

(3) [対策]

① 学習について

数学の少人数授業では、昨年度より学力支援講師を導入して、よりきめ細かな授業対応をするようになってきた。さらに12月から2年生を対象に地域人材を講師として補充授業を行い、また、各学年では個別に教科担当者や担任教諭が放課後の学習指導を実施している。

区・都・国の学力調査においては平均以上であるが、下位層への具体的な手立てを講じることが課題である。

また、評価・評定に関して、「6. 評価・評定の規準や方法について説明している。」については83%が肯定的回答をしているが、「7. 学校は生徒の学力を

適正に評価している。」については69%と低く、客観性と妥当性のある適正な評価・評定に関しては、研修等を通して教員の力量を向上させることが課題である。

② いじめ・不登校について

いじめに関しては、陰湿かつ執拗で深刻な事案はない。いじめの未然防止に対する教員の意識は高く、情報をいち早く捉えると共に、兆候の段階から素早く対応していることが効を奏しているものと考えられる。

しかし、アンケート結果では「12. 学校はいじめや不登校の未然防止に努めている。」に対する肯定的回答が61%と低く、生徒の意識とのズレに関しては、さらなる検証と改善の取り組みが必要である。

不登校に関しては、小学校から不登校のまま進学してくる生徒が増えており、また、他校で不登校となり、心機一転を目指して本校へ転校してきたものの、改善に至らないケースも見られる。

SCや心のふれあい相談員、学校生活支援員（学校生活臨時支援員）等の活用をさらに進めると共に、子ども家庭支援センターや児童相談所及び医療等、関係機関との連携を要するケースの見極めを早めに行い、SSWRの協力も得ながら、重篤化する前に改善できるよう次年度も取り組んでいく。

③ 部活動

部活動の設置数に関して、生徒・保護者共に増加希望が出されている。本校の規模と現状では、顧問の確保ができず、現状より増やすことは不可能である。次年度の検討課題である。

④ 進路指導

進路指導については、1年次よりキャリア教育として計画的に進めてきている。今回のアンケートでは3年次における受験指導のことを言っているものと思われ、これについては現在も都立・私立高校と連絡を取りながら進めている。6月から始まる各高校の説明会情報、9月から行われる進路説明会等の情報についても、随時学年掲示板や学年だより等でお知らせしている。今後も続けていく。

2 学校関係者評価

(1) 総括

① [成果]

保護者アンケートの回答が前年度に引き続き90%を超えている。

日頃から主体的に挨拶ができ、行事に一生懸命に取り組む生徒がほとんどであり、教育効果の表れと捉えることができる。

学力に関しては、各学力調査の結果が示すとおり、十分な成果が得られている。

思春期における心身の成長に伴う心の揺れや、人間関係における悩み・葛藤が当然ある中で、重篤ないじめがないことも、評価すべき点である。

不登校については、個別に様々な理由があり、いずれも各学年・学級において最大限の働きかけを行っている。第3学年ですでに進路を決定した者も複数おり、手厚い個別対応が実施されている。

いじめ・不登校については、引き続き未然防止と即対応をしてもらいたい。

学校開放利用団体の学校使用状況について、一部に長年の懸案事項があったが、今年度、改善が見られた。引き続き適正使用となるよう施設管理を遂行してもらいたい。

② [課題]

補充教室について学校として取り組み始めた点は評価できるが、まだまだ拡充の余地がある。次年度はさらなる改善を期待する。

部活動については、活動時間が長いという意見があった。スポーツ庁・文化庁の指針に則って、生徒の活動の保証と共に、教員の働き方改革につながるよう、適正な活動時間・日数の設定を十分に検討し、学校体制として教職員・生徒・保護者の共通理解の下に適正に活動できるよう進めることが求められる。

③ [改善策]

補充学習については、練馬区学校サポーターなどの人材バンクを活用して、放課後や夏季休業期間の補充学習教室の拡充を図る。

部活動に関しては、学校としての統一見解をまとめ、保護者会等を通じて理解を深めながら、協力を仰ぐ。また、各部で複数回の保護者会を行い、顧問の指導方針の周知を図ると共に、保護者同士の関係構築を進める。

家庭学習については学活などで生徒にも指導し、定期的に宿題などを出して習慣付けできるように生徒に促すが、家庭ごとに保護者からのアプローチなど家庭の取組が一番大切なので、保護者会などで各家庭へも呼びかけを行う。

3 評価結果の公表等

- (1) 3月中に評価結果を保護者に配布
- (2) 3月中に学校ホームページに掲載

4 次年度の学校改善に向けた校長の見解

教員組織の見直しにより、校務改善を図ることが喫緊の課題である。

各学年及び校務分掌の一新により、職務の偏りを是正し、教職員が気持ちよく、その能力を最大限に発揮すると共に、自己の職責遂行能力の向上に取り組むことで、生徒の学力及び豊かな心の涵養に資する学校経営を目指す。

特に、教員の授業力向上に関しては、研修計画の見直しと共に研究授業の実施回数を増やし、OJTの活用と共に各教員の指導力向上を現実的なものとする。

また、学習指導要領の移行期間に際しては、確実な履修と、完全施行に向けての準備を確実に行わせる。

次年度より実施となる「特別の教科 道徳」に関しては、今年度の研修成果を踏まえ、生徒の主体的かつ対話的な取り組みから、生徒一人一人が多面的で多角的に考えを深められるような授業実践の取り組みを進める

今年度、教員用タブレットを用いて、宿泊行事等におけるリアルタイムの情報発信を行った。次年度も、学校だより、学年・学級だよりおよび学校HPを活用した情報発信をより密に行い、保護者・地域への理解促進を図る。

学習面においては、学習規律の徹底及び分かる授業への改善にさらに取り組み、区・都・国の学力調査における客観的な評価において十分な成果が出せるよう、基礎・基本の定着と、応用力の育成に努める。そのために、次年度配置されるICT機器の活用をより進められるよう、教員の意識向上とスキルアップを図る。

学区の下石神井小学校との連携に関しては、改築期間中の本校校庭を利用しての小学校の運動会や、夏季休業日中のラジオ体操、中学校からの出前授業や生徒会による取組、また文化発表会での交流や児童・生徒作品の相互展示を通して、小中の円滑な接続と、9年間を見通した教育活動を継続させていく。